

J.S.Bach Inventionen

バッハ インヴェンション

第9番 ヘ短調 BWV780

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって	3
1. バッハ「インヴェンション」第9番 f moll BWV 780 楽譜	4
2. 主題と対主題と装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「インヴェンション」第9番 f moll BWV 780 第Ⅰ展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「インヴェンション」第9番 f moll BWV 780 第Ⅱ展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. 楽譜に3～5のアナリゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	14

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いであります。

この度、全 15 曲の PDF 書籍、それから You tube 講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近はコンクール課題において、小学 5, 6 年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

(2019 年 3 月)

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける 17 世紀初頭から 18 世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ (1545-1618) (イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります)、ドメニコ・スカッラッティ (1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ (1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759) などが上げられます。

今から 300 年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたりますチェンバロ (独: Cembalo, 伊: clavicembalo) で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハープシコード (harpsichord)、フランス語ではクラヴサン (clavecin) といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー (polyphony) といいます。ポリフォニー (polyphony) の対義語としては、ホモフォニー (英語: homophony、独語もしくは仏語: Homophonie) となります。和声音楽です。

曲集に採用されています 15 調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ホ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ート長調ート短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調 と 嬰へ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。) このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 9

Johann Sebastian Bach
BWV 780

The musical score for Johann Sebastian Bach's Invention No. 9, BWV 780, is presented in a standard piano format. It features a treble and bass staff, with a key signature of three flats (B-flat, E-flat, A-flat) and a 3/4 time signature. The piece is composed of 16 measures, organized into five systems of three measures each. The notation includes various musical symbols such as notes, rests, slurs, and fingerings (numbers 1-5). The piece concludes with a fermata on the final note of the treble staff.

2. 主題と対主題と装飾記号の演奏について

f moll で書かれています第9番は、宗教的な思索を感じさせる深い表現に満ちた曲です。バッハ自身が書き込んだ弧線も参考にして頂きたいのですが、第3番同様に判読が難しいらしく、版により異なっています。

この曲の主題がどこまでかの見解も分かれると思います。

The first system of the musical score is divided into two parts. The top part, labeled '主題' (Main Theme) in red, consists of three measures of music in 3/4 time, featuring a melody with various ornaments and fingerings. The bottom part, labeled '対主題' (Counter-Theme) in red, also consists of three measures, featuring a bass line with similar ornaments and fingerings. The two parts are connected by a dashed red line. The second system of the score is labeled '接続句' (Connecting Phrase) in black. It consists of three measures of music, featuring a melody with various ornaments and fingerings. The two parts are connected by a dashed red line.

5小節1拍のAsまでという見解もあると思いますが、それですと9～11、12～14小節の主題に欠ける事となります。4小節を接続句と捉えた方が妥当と思います。下声を対旋律と解釈されています分析書もあると思いますが、この曲は、上声下声の旋律が相対し織りなされています。対主題の見解が妥当と思います。その対主題は、明確に4小節1拍までですので、主題も1拍までと捉えるのが適当だと思います。ですので、接続句と主題は重複する事となります。

装飾記号の演奏に関しましては、15～16小節は、

The second system of the musical score consists of two measures of music. The top part, labeled '主題' (Main Theme) in red, features a melody with various ornaments and fingerings. The bottom part, labeled '対主題' (Counter-Theme) in red, features a bass line with similar ornaments and fingerings. The two parts are connected by a dashed red line.